

熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2024

モモ「さくひめ」のトンネルハウス栽培は 5月下旬～6月上旬の早期出荷と高品質果実生産ができる



トンネルハウス栽培
「さくひめ」の果実

【2022】	DVI値	低温積算 時間 ^{注1)}	果実重 (g)	糖度 (Brix)
1/12被覆	0.8	630	252	15.6
1/24被覆	1.0	780	225	15.1
1/31被覆	1.1	950	260	15.1
露地	－	－	276	15.0
【2023】				
1/10被覆	0.8	630	260	16.3
1/25被覆	1.0	800	245	15.4
2/3被覆	1.1	970	241	13.2
露地	－	－	259	15.0

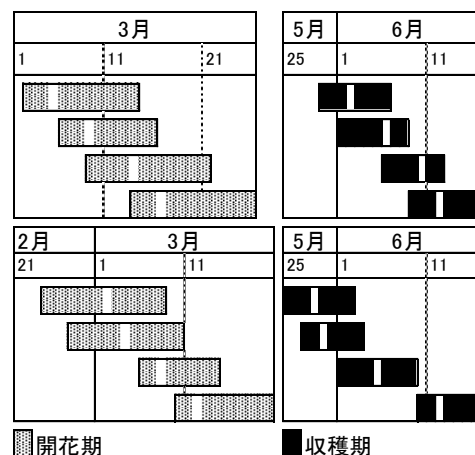


図1 トンネルハウス栽培の被覆時期別の「さくひめ」果実品質、開花期・収穫期

注1) $-6^{\circ}\text{C}\sim 7.2^{\circ}\text{C}$ の低温遭遇時間の積算値

注2) 開花期・収穫期の白抜きは盛期

問 研究のねらいは？

答 モモ「さくひめ」は、開花に必要な冬季の低温積算時間が短く、暖冬の年でも安定した開花と果実生産が見込めます。しかし、トンネルハウス栽培ではどの程度の低温時間でビニル被覆すればよいか、どの程度早期出荷ができるか明らかではありませんでした。そこで、ビニル被覆時期を検討し、露地よりもどのくらい早く収穫できるのかを明らかにしました。

問 優れている点は？

答 従来の品種より短い低温時間であるDVI値0.8を満たしたとき(低温積算時間で約630時間)にビニル被覆することで、露地栽培と比べて約2週間早く収穫ができます(図1)。

- 1 トンネルハウス栽培での生育日数は約90日で、開花が早いほど収穫期も早くなり、5月下～6月上旬の早期出荷が可能です。
- 2 ビニル被覆時期を遅くすることで収穫期を遅らせることができるため、摘果や収穫期の労力分散ができます。
- 3 無袋栽培でも健全果率が露地の有袋栽培と同等以上なので、袋掛けの必要がありません。

問 栽培または普及するうえで注意する点は？

- 答
- 1 開花期が非常に早いので、低温が心配される地域では晩霜対策は必須です。
 - 2 ビニル被覆をDVI値1.0より早期に行うためには、「さくひめ」のみの単植園にする必要があります。